

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	総合実習	総合実習	3	1	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
農文協「農業と環境」	季節の野菜、草花、造園材料

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	9	各分野に必要な実習、実験道具の名称や使用方法について理解し、適切に使用できる。
	5	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	12	野菜の定植、管理ができる。 草花の播種、挿し木、管理ができる。 植物バイオテクノロジー実験の基本操作を身に着ける。
	6	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	15	野菜の定植、管理ができる。 草花の灌水、管理ができる。 クリーンベンチの使い方、アルミ柱の閉開柱の仕方を理解する。
	7	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	3	1学期に各分野で使用した教材や道具についての名称や使い方、役割を理解し、覚え、適切に扱えるようになる。
二学期	9	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	15	野菜の定植、収穫を理解し、できる。 草花の灌水、管理ができる。 無菌操作ができる。
	10	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	15	野菜の収穫、調整を理解し、できる。 草花の播種、鉢上げ、管理ができる。 無菌操作ができる。
	11	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	12	野菜の販売について理解し、調整できる。 草花の販売について理解し、調整できる。 無菌操作ができる。
	12	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	3	2学期に各分野で使用した教材や道具についての名称や使い方、役割を理解し、覚え、適切に扱えるようになる。
三学期	1	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	9	野菜の貯蔵や加工について理解する。土壌管理ができる。 温室管理について学び、実施できる。 実体顕微鏡を扱える。
	2	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	9	野菜の貯蔵や加工を理解する。土壌管理ができる。温室管理について学び、実施できる。実体顕微鏡を扱い、茎頂の取り出しができる。
	3	野菜分野の管理実習 草花分野の管理実習 植物バイオテクノロジー分野の基礎実験と管理実習	3	各分野で使用した教材や道具についての名称や使い方、役割を理解し、覚え、適切に扱えるようになる。

評価の観点・方法

105

【関心・意欲・態度】実習に参加する態度、服装、筆記具などの準備、発言や質問など。【知識・理解】これまでの学習内容について正しく理解できているか。レポート提出状況。実物鑑定試験。【技能・表現】指示された課題を正確に行うことができるか【思考・判断】自分で考えて学習のまとめをすることができるか【その他】定期考査、学習のまとめの評価を行う。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	農業と環境	農業と環境	4	1	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
農文協「農業と環境」	家庭菜園「コツのコツ」

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	・人間生活と農業と環境 ・キュウリ・エダマメ・草花の播種 ・種子のつくりと栽培の基礎 ・地域の環境の特徴	12	【実習】キュウリ・エダマメ・草花の播種、定植、栽培管理について理解し、実施できる。 【座学】農業と地域の環境の関わり、種子の特徴を理解する。
	5	・栽培の基礎と栽培環境 ・キュウリ・エダマメ・一年草草花の栽培管理 ・農業・農山村・森林の役割	16	【実習】キュウリとエダマメの定植、栽培管理、観察ができる。草花の播種、鉢上げができる。 【座学】農業・農山村・森林の役割、発芽と光合成のしくみを理解する。
	6	・栽培の基礎と栽培環境 ・誘引・土寄せ・施肥・マルチング等の栽培管理 ・主な地球環境問題	20	【実習】キュウリ・エダマメの栽培管理、草花の管理ができ観察記録がつけられる。 【座学】誘引・土寄せ等の栽培管理について理解する。主な地球環境問題について理解する。
	7	・期末考査 ・キュウリ・エダマメの収穫方法 ・花壇製作	4	【実習】キュウリ・エダマメの収穫を適切にでき、記録をつけられる。栽培した花苗を利用し花壇を制作する。 【座学】期末考査。
二学期	9	・栽培プロジェクトの意義と計画 ・冬用花壇苗の栽培 ・気象と作物の生育 ・家畜の飼育と利用	20	【実習】各自、栽培プロジェクトの意義を理解し計画的に取り組む。冬用草花を播種する。 【座学】農業技術検定に向け、気象と作物の生育や家畜の飼育と利用について理解
	10	・栽培プロジェクトの実施 ・冬用花壇苗の栽培 ・土壌の特徴とその役割 ・主な食品の加工方法	20	【実習】各自、栽培プロジェクトに取り組む。経過を記録する。冬用草花を育苗する。 【座学】土壌の特徴と役割、主な食品の加工方法について理解する。
	11	・栽培プロジェクトの実施 ・冬用花壇の制作 ・有害生物の総合的な管理 ・農業機械の特徴	16	【実習】各自、栽培プロジェクトに取り組む。経過を記録する。冬用花壇を制作する。 【座学】有害生物の総合的な管理、農業機械の特徴について理解する。
	12	・期末考査 ・日本農業技術検定に向けた学習 ・プロジェクト学習のまとめ	4	【実習】各自のプロジェクト栽培を終わらせ、結果をまとめる。 【座学】期末考査。日本農業技術検定に向けて学習する。
三学期	1	・プロジェクト学習の発表準備 結果のまとめと調べ学習 ・花壇の管理	12	【実習】制作した花壇の管理作業を行う。 【座学】各自、プロジェクト学習の結果をまとめ、調べ学習等により発表用資料を作成する。
	2	・プロジェクト学習の発表 ・プロジェクト学習の振り返り ・花壇の管理	12	【実習】制作した花壇の管理作業を行う。 【座学】各自、プロジェクト学習の発表を行う。自己評価と他の生徒の発表の評価を行う。各自、プロジェクト学習の振り返りを行う。
	3	・学年末考査 ・1年間のまとめ	4	【座学】学年末考査。1年間を振り返り、各自、次年度の学習目標をもつ。

評価の観点・方法

140

【関心・意欲・態度】実習に参加する態度、服装、筆記具などの準備、発言や質問など。【知識・理解】これまでの学習内容について正しく理解できているか。考査、提出物。【技能・表現】指示された課題を正確に行うことができるか。発表資料の作成と発表態度。【思考・判断】プロジェクト学習の計画と実施、まとめ、振り返りを行うことができるか。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	農業情報処理	農業情報処理	2	1	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教農業情報処理・OFFICE2010	

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と情報 ・情報社会のモラルとセキュリティ 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・農業と情報の関係を昔を振り返り伝える。 ・高度情報化社会のモラルを守る心構えを身につける。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の基礎 ・コンピューターと情報処理 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の種類とその表現方法を理解する。 ・コンピューターの仕組みと利用を理解する。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアと情報の活用 ・インターネットの仕組みと利用 ・日本語ワードプロセッサの利用 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な情報収集と記録の重要性を理解する。 ・インターネットの概要を理解する。 ・日本語ワードプロセッサの特徴と機能を理解する。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・文書作成 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・文書を作成できる。
二 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの利用 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの機能と特徴を理解する。 ・表計算ソフトウェアの利用方法を身につける。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの利用 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの機能と特徴を理解する。 ・表計算ソフトウェアの利用方法を身につける。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの利用 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの機能と特徴を理解する。 ・表計算ソフトウェアの利用方法を身につける。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの利用 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの機能と特徴を理解する。 ・表計算ソフトウェアの利用方法を身につける。
三 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアの利用 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアの機能と特徴を理解する。 ・プレゼンテーションソフトウェアの利用方法を身につける。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアの利用 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアの機能と特徴を理解する。 ・プレゼンテーションソフトウェアの利用方法を身につける。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアの利用 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアを活用しながら、プレゼンテーションができる。

評価の観点・方法

70

日々の授業や課題への取り組み、定期考査などを総合し評価する。

①授業態度②保存状況③授業内テスト

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	果樹	果樹	2	2	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
果樹(実教出版)	プリント、果樹(ブルーベリー、クリ、ウメ、ブドウ、カキ)

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	・本校で栽培している果樹の概要説明 ・ブルーベリーの管理方法について	6	栽培されている果樹の特性が理解できたか。 ブルーベリーの管理について時期的違いが理解できたか。
	5	・ブルーベリー苗の植え替えと花芽の調整 ・ウメの管理について	8	ブルーベリー苗の植え替えに必要な用土の特性とブルーベリーの特性が理解できたか。 ウメの特性と収穫時期が理解できたか。
	6	・ブルーベリー畑の管理と収穫 ・ウメの収穫と加工 ・ブルーベリー花芽の調整	10	ブルーベリーの収穫の目安が理解できているか。 ウメの収穫方法が分かると共にウメの加工食品の基礎知識を身に付ける。
	7	ブルーベリー、ウメについて テスト対策	2	ブルーベリー、ウメについて管理方法や収穫時期、収穫方法等が理解できている。
二学期	9	ブルーベリーの収穫と管理 ナシ、ブドウの収穫と管理	10	ブルーベリーの収穫の目安と徒長枝の剪定方法が理解していること。 ナシ、ブドウの収穫方法と収穫後の管理が理解できていること。
	10	クリの収穫と管理 カキの摘果について	10	クリの収穫の目安と収穫後の管理が理解できていること。 カキの適正な摘果方法を理解できていること。
	11	カキの収穫と管理	8	カキの収穫の目安と渋カキ・甘カキの違いを理解できていること。
	12	カキ、ウメ、ナシの整枝剪定 テスト対策	2	整枝剪定のポイントが理解でき、適正な剪定ができること。
三学期	1	カキ、ウメ、ナシの整枝剪定 ブルーベリーの剪定	6	整枝剪定のポイントが理解でき、適正な剪定ができること。
	2	ブルーベリーの整枝剪定 ブルーベリーの挿し木	6	整枝剪定のポイントが理解でき、適正な剪定ができること。 挿し木とは何か理解でき、適正な挿し木ができること。
	3	土壌改良 テスト対策	2	果樹全般の管理方法や収穫、加工について理解できていること。

評価の観点・方法

70

座学、実習の割合は1対1で実施する。実習点、座学点を4割、定期考査点を6割で総合的に判断する。
また、実習においてはアクティブ・ラーニングを取り入れており観点別評価、協働性、主体性を重視した評価とする。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	植物バイオテクノロジー	植物バイオテクノロジー	2	2	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
植物バイオテクノロジー(実教出版)	供試植物・培養物・ラン科植物等

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	オリエンテーション 植物バイオテクノロジーの意義と役割 ラン科植物の特徴	6	・植物バイオテクノロジーの意義と役割について理解できる。 ・ラン科植物の特徴が理解できる。
	5	バイオテクノロジーの歴史とあゆみ ラン科植物の栽培管理 ラン科植物の交配	8	・バイオテクノロジーの歴史とあゆみについて理解できる。 ・ラン科植物の栽培管理ができる。 ・ラン科植物(シラン)の交配ができる。
	6	人間社会とバイオテクノロジーの関わり 植物細胞の構造と働き 無菌操作(前年度の復習)	10	・人間社会とバイオテクノロジーの関わり、植物細胞の構造と働きについて理解できる。 ・基本的な無菌操作を安全にできる(前年度の復習)。
	7	期末考査 1学期のまとめ	2	・期末考査 ・1学期の学習のまとめを行う。
二学期	9	植物組織培養の基礎 組織培養の方法	10	・植物組織培養の基礎が理解できる。 ・組織培養の方法が理解できる。
	10	培地の組成と調整 組織培養の施設と機器・器具 器具の取り扱い	10	・培地の組成を理解し調整できる。 ・組織培養の施設と機器・器具の特徴が理解できる。 ・器具の取り扱いができる。
	11	ラン類の播種と培養 培養組織の生育と環境 組織片の培養	8	・ラン類の播種と培養ができる。 ・培養組織の生育と環境が理解できる。 ・組織片の培養ができる。
	12	期末考査 継代培養	2	・期末考査 ・継代培養ができる。
三学期	1	ラン類の無菌播種の継代培養 ラン類の種子の特徴	6	・ラン類の無菌播種の継代培養ができる。 ・ラン類の種子の特徴が理解できる。
	2	培養苗の順化作業 ラン類とラン菌の共生関係	6	・順化作業ができる。 ・ラン類とラン菌の共生関係が理解できる。
	3	学年末考査 植物バイオテクノロジーの成果と展望	2	・学年末試験 ・植物バイオテクノロジーの成果と展望が理解できる。

評価の観点・方法

70

- ・植物バイオテクノロジーの意義を理解できたか。
- ・組織培養の方法を理解し安全に培養することができたか。
- ・継代培養・順化の意味を理解し、適切に作業できたか。
- ・ラン科植物の特徴を理解し栽培管理ができたか。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	総合実習	総合実習	3	2	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教出版「野菜」・実教出版「草花」	季節の野菜、草花、造園材料

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一 学 期	4	野菜:夏野菜の播種、管理 草花:春の草花管理 造園:造園樹木の管理	9	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	5	野菜:夏野菜の播種、管理 草花:春の草花管理 造園:造園樹木の管理 実物鑑定	12	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	6	野菜:夏野菜の収穫と管理 草花:夏の草花管理 造園:造園樹木の管理	15	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	7	野菜:夏野菜の収穫と管理 草花:夏の草花管理 造園:四ツ目垣の制作 実物鑑定	3	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
二 学 期	9	野菜:秋野菜の播種と管理 草花:秋の草花管理 造園:四ツ目垣の制作	15	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	10	野菜:秋野菜の収穫と管理 草花:秋の草花管理 造園:四ツ目垣の制作 実物鑑定	15	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	11	野菜:秋冬野菜の収穫と管理 草花:秋の草花管理 造園:四ツ目垣の制作	12	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を習得できていること。
	12	野菜:冬野菜の収穫と管理 草花:冬の草花管理 造園:造園樹木の整枝剪定 実物鑑定	3	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
三 学 期	1	野菜:冬野菜の収穫と管理 草花:冬の草花管理 造園:造園樹木の整枝剪定	9	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	2	野菜:畑の土壌改良と管理 草花:冬の草花管理 造園:造園樹木の整枝剪定	9	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	3	野菜:畑の土壌改良と管理 草花:冬の草花管理 造園:造園樹木の整枝剪定 実物鑑定	3	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。

評価の観点・方法

105

日頃の実習評価は、実習態度、レポートで評価する。態度点においては、協働性、主体性を中心とし、レポート点は実習内容の理解度、考察を重視して評価する。また、定期考査においては、実物鑑定を実施し、専門的知識の理解度を評価する。この実習態度、レポート、実物鑑定を総合的に評価する。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	草花	草花	2	2学年	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
草花(実教出版)	植物材料

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	草花園芸について シクラメンの鉢上げ キクの挿し芽	6	草花園芸の特徴を理解する。 シクラメンの鉢上げ方法を理解する。 キクの挿し芽ができる。
	5	生活と草花の利用 キクの鉢上げ バラの歴史と管理	8	草花利用の意義を理解する。 ヒューマンサービスと草花の関係性について理解する。 バラの歴史について理解し、適切な管理ができる。
	6	草花の生育と環境 キクの芽摘み シクラメンの鉢替え	10	草花の栽培サイクルを理解する。 花芽分化と発達について理解する。 植物の状態を踏まえた管理ができる。
	7	草花の繁殖 キク、バラ、シクラメンの栽培管理	2	種子繁殖と栄養繁殖の特徴を理解する。 キク、バラ、シクラメンの適切な管理ができる。
二学期	9	切り花生産について 切り花の品質保持 切り花の管理 キク、バラ、シクラメンの栽培管理	10	切り花の種類と特性について理解する。 キク、バラ、シクラメンの適切な管理ができる。
	10	キクの栽培管理 シクラメンの栽培管理 バラの繁殖	10	環境条件の違いによる生育の変化を理解する。 バラの繁殖ができる。
	11	キクの仕上げ シクラメンの仕上げ バラの栽培管理	8	キク、バラ、シクラメンの適切な管理ができる。
	12	鉢物生産の特色 バラの栽培管理	2	国内の鉢物栽培の状況を理解する。 バラの栽培環境等を踏まえた管理ができる。
三学期	1	草花の品種改良 バラの剪定	6	草花の品種改良について理解する。 バラの適切な剪定ができる。
	2	東京GAPについて 観葉植物の管理	6	東京GAPについて理解する。 観葉植物の種類と管理方法を理解する。
	3	花栽培のまとめ オリンピック・パラリンピック植物紹介	2	鉢物、切り花、一年草の内容について総合的に判断し栽培ができる。

評価の観点・方法

70

次の4点から意欲、態度、技術の到達度等を総合的に判断し、評価する。

①授業態度②栽培技術の定着度③レポート④定期考査

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	野菜	野菜	2	2	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教「野菜」	

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	・野菜生産の役割と動向 野菜の種類と特徴 ・果菜類の鉢上げ、管理。	6	・野菜の種類を系統、分類ごと理解し、見分けることができる。 ・夏の果菜類の鉢上げを適切にすることができる。
	5	・野菜生産の役割と動向 野菜の種類と特徴 ・果菜類の定植、管理。	8	・野菜の種類を系統、分類ごと理解し、見分けることができる。 ・夏の果菜類を定植し、適切に管理できる。
	6	・野菜生産の役割と動向 野菜の消費、生産と供給 ・果菜類の誘引、管理。	10	・野菜の需要と供給、流通について理解する。 ・果菜類の誘引や管理について、作目別に適切に実施することができる。
	7	・野菜生産の役割と動向 野菜の安全性 ・果菜類の管理、収穫調整	2	・果菜類の管理、収穫と調整を自ら考えて実施することができる。
二学期	9	・野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 野菜の生育と生理 ・葉茎菜類の播種、間引き等の管理	10	・野菜の生育、種子と発芽について理解する。 ・葉茎菜類の管理ができる。
	10	・野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 茎と葉の成長 ・葉茎菜類の播種、間引き等の管理	10	・野菜の生育、栄養成長について理解する。 ・葉茎菜類の管理ができる。
	11	・野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 光合成のしくみと物質の生産 ・葉茎菜類の播種、間引き等の管理。収穫調整	8	・光合成と物質生産について理解する。 ・葉茎菜類の管理と、収穫調整が適切にできる。
	12	・野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 光合成のしくみと物質の生産 ・葉茎菜類の播種、間引き等の管理。収穫調整	2	・光合成と物質生産について理解する。 ・葉茎菜類の管理と、収穫調整が適切にできる。
三学期	1	・野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 根の発達と肥大 ・腐葉土、堆肥づくり。圃場の土壌改良。	6	・野菜の根の役割、発達について理解する。 ・圃場管理、土壌改良について理解し、実施する。
	2	・野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 花芽形成と抽だい ・腐葉土、堆肥づくり。圃場の土壌改良。	6	・野菜の花芽形成と抽だいについて理解する。 ・圃場管理、土壌改良について理解し、実施する。
	3	まとめ	2	まとめ

評価の観点・方法

70

【関心・意欲・態度】実習に参加する態度、服装、筆記具などの準備、発言や質問など。【知識・理解】これまでの学習内容について正しく理解できているか。【技能・表現】指示された課題を正確に行うことができるか【思考・判断】自分で考えて学習のまとめをすることができるか【その他】定期考査、学習のまとめの評価を行う。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	課題研究	課題研究	3	3学年	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教出版「野菜」・実教出版「草花」 実教出版「果樹」 実教出版「植物バイオテクノロジー」	

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	課題解決に向けた調査、研究、実験	9	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
	5	課題解決に向けた調査、研究、実験	12	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
	6	課題解決に向けた調査、研究、実験	15	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
	7	課題解決に向けた調査、研究、実験	3	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
二学期	9	課題解決に向けた調査、研究、実験	15	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
	10	課題解決に向けた調査、研究、実験	15	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
	11	課題解決に向けた調査、研究、実験	12	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
	12	課題解決に向けた調査、研究、実験	6	課題設定の確認 課題解決に向けた調査・研究・実験
三学期	1	課題解決に向けた調査、研究、実験のまとめ	9	課題解決に向けた調査・研究・実験のまとめ 課題研究の成果についての発表
	2	課題解決に向けた調査、研究、実験のまとめ	9	1年間のまとめ
	3			

評価の観点・方法

105

--

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	生物活用	生物活用	2	3	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教出版「生物活用」	作物の種子等、植物材料

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	ジャガイモの管理 ラッカセイの播種 サトイモの芽出し	6	ジャガイモ、サトイモ、ラッカセイの栽培管理技術を習得させる
	5	ジャガイモ、ラッカセイの管理 サトイモの定植	10	ジャガイモ、サトイモ、ラッカセイの栽培管理技術を習得させる
	6	ジャガイモの収穫、調整 サトイモ、ラッカセイの管理	10	ジャガイモ、サトイモ、ラッカセイの栽培管理技術を習得させる
	7	ジャガイモの活用 サトイモ、ラッカセイの管理 夏野菜の管理と収穫、調整、活用	4	夏野菜の活用方法を知る
二学期	9	サトイモ、ラッカセイの管理 秋冬野菜の播種 ハーブ類の栽培、活用	10	野菜やハーブ類の栽培技術と活用方法を習得させる
	10	サトイモ、秋野菜の管理 ラッカセイの収穫、調整、活用 秋冬野菜の管理 ハーブ類の栽培、活用	10	野菜やハーブ類の栽培技術と活用方法を習得させる
	11	サトイモの収穫、調整、活用 秋冬野菜の管理、収穫、活用 ハーブ類の栽培、活用	8	野菜やハーブ類の栽培技術と活用方法を習得させる
	12	秋冬野菜の収穫、活用 ハーブ類の活用	5	野菜やハーブ類の活用方法を習得させる
三学期	1	秋冬野菜の貯蔵、活用 ハーブ類の活用	6	野菜やハーブ類の活用方法を習得させる
	2		1	
	3			

評価の観点・方法

70

次の4点から意欲、態度、技術の到達度等を総合的に判断し、評価する。

①授業態度②栽培技術の定着度③ノート提出④定期考査

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	フラワーアレンジ	選択Aフラワーアレンジ	2	3学年	必修選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教出版「草花」	生花・ドライフラワー

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	フラワーアレンジメントの資材 フラワーアレンジメント基礎	6	吸水性スポンジの取り扱い方法 花器の取り扱い方法 各種資材の特徴 切り花の取り扱い方法
	5	フラワーアレンジメントの資材 フラワーアレンジメント基礎 季節の花材の特徴	8	グリーンの取り扱い方法 ワイヤーの取り扱い方法 各季節の花材の特徴
	6	花材の特性 輪郭線(アウトライン)の構成 ラウンド(ドーム)型のアレンジメント	10	フォーカルポイント・輪郭線(アウトライン)等 ラウンド(ドーム)型の作品制作
	7	期末考査 1学期のまとめ	4	期末考査 1学期のまとめ
二学期	9	トライアングラー型のアレンジメント 作品の見せ方(四方見) 切り花の流通・消費動向	10	トライアングラー型の作品制作 一方見・四方見 切り花の流通・消費の近年の動向
	10	ブーケのアレンジメント 花の造形と配色 フラワーアレンジメントの資材 文化祭展示用アレンジメントのデザイン	10	ブーケの作品制作 花の造形と配色 リボンの取り扱い方法 文化祭展示用アレンジメントのデザイン
	11	文化祭展示用アレンジメント 花束のアレンジメント ラッピング(包装)方法 ドライフラワーのアレンジメント	8	文化祭展示用アレンジメントの制作 花束の作品制作 ラッピング資材と方法 ドライフラワーの作品制作
	12	期末考査 リースのアレンジメント 2学期のまとめ	4	期末考査 リースの作品制作 2学期のまとめ
三学期	1	卒業制作	10	卒業制作のデザイン 卒業制作
	2			
	3			

評価の観点・方法

70

ア 関心・意欲・態度	授業態度、発問
イ 思考・判断・表現	発問への解答
ウ 技能	作品制作、準備・片付け、資材の取り扱い
エ 知識・理解	レポート、考査

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	果樹	選択A果樹	2	3	必修選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
果樹(実教出版)	プリント、果樹(ブルーベリー、ウメ、ブドウ、ナシ、カキ、クリ)

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	ブルーベリーの植え替え ブルーベリーの摘花	6	ブルーベリーの特性、生育に適した土壌とは何か理解できること。植え替えに使用する用土について理解できていること。 摘花のポイントが理解できていること。
	5	ブルーベリーの植え替え ブルーベリーの摘花 ブルーベリーの整枝	8	ブルーベリーの特性、生育に適した土壌とは何か理解できること。植え替えに使用する用土について理解できていること。 摘花のポイントが理解できていること。
	6	ウメの収穫と管理 ウメの加工 ブドウの管理	10	ウメの特性と収穫方法が理解できていること。 衛生管理を含めウメの加工が適正にできること。 ブドウの袋掛けについて理解できていること。
	7	ブルーベリーの収穫 ブルーベリー畑のネットかけ 果樹のまとめ、テスト対策	6	ブルーベリーの収穫の目安が理解できていること。 夏季の果樹管理が適正にできること。
二学期	9	ブルーベリーの収穫 ナシ、ブドウの収穫と管理	10	ブルーベリーの収穫の目安が理解できていること。 ナシ、ブドウの収穫目安とその後の管理が適正にできること。
	10	クリの収穫と加工 果樹全般の管理	10	クリの特性を理解し、収穫の目安を理解できていること。 食品衛生を理解し、クリの加工が安全にできること。
	11	カキの収穫と加工 果樹全般の管理	8	カキの特性を理解し、収穫の目安を理解できていること。 食品衛生を理解し、カキの加工が安全にできること。
	12	ウメ、カキ、ナシの整枝剪定 テスト対策	6	果樹の整枝剪定のポイントを理解し適正に行えること。
三学期	1	ブルーベリーの整枝剪定 テスト対策	6	ブルーベリーの特性を理解し、適正な整枝剪定ができること。
	2			
	3			

評価の観点・方法

70

座学、実習の割合は1対1で実施する。実習点、座学点を4割、定期考査点を6割で総合的に判断する。
また、実習においてはアクティブ・ラーニングを取り入れており観点別評価、協働性、主体性を重視した評価とする。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	野菜	選択A野菜	2	3	必修選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教「野菜」	水耕栽培装置

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	・人工環境における栽培技術 露地栽培 ・水耕栽培メロンの基礎知識、メロンの播種と定植	6	【座学】 ・人工環境による栽培とはどのようなものか、具体的に理解し、知識として定着させる。
	5	・人工環境における栽培技術 施設栽培の特徴 ・メロンの誘引、芽かき等の管理技術	10	【実習】 ・水耕栽培メロンの特性を知り、栽培管理技術を身につける。 ・メロンの収穫と収穫後の調整、販売について学び、習得する。
	6	・人工環境における栽培技術 施設栽培の特徴 ・メロンの誘引、芽かき、玉吊り等の管理技術	10	
	7	・人工環境における栽培技術 施設の種類とその構造 ・メロンの収穫・調整、原価計算など	4	
二学期	9	・人工環境における栽培技術 溶液栽培 ・水耕栽培トマトの基礎知識、トマトの播種と定植	10	
	10	・人工環境における栽培技術 施設栽培の特徴 ・トマトの誘引、芽かき等の管理技術	12	【実習】 ・水耕栽培トマトの特性を知り、栽培管理技術を身につける。 ・トマトの収穫と収穫後の調整、販売について学び、習得する。
	11	・人工環境における栽培技術 施設栽培の特徴 ・トマトの誘引、芽かき等の管理技術	10	
	12	・人工環境における栽培技術 施設の種類とその構造 ・トマトの収穫・調整、原価計算など	4	
三学期	1	・人工環境における栽培技術 施設の種類とその構造 ・トマトの収穫・調整、原価計算など	4	
	2		0	
	3		0	

評価の観点・方法

70

次の4点から意欲、態度、技術の到達度等を総合的に判断し、評価する。

①授業態度②栽培技術の定着度③レポート④定期考査

令和3年度 年間授業計画

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	植物バイオテクノロジー	選択B 植物バイオテクノロジー	2	3	必修選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
植物バイオテクノロジー(実教出版)	供試植物・培養物・ラン科植物等

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一 学 期	4	オリエンテーション ラン科植物の栽培管理	6	・ラン科植物の栽培管理ができる。
	5	茎頂培養の意義・特徴 茎頂培養の培地作成 供試植物からの茎頂摘出	8	・茎頂培養の意義・特徴がわかる。 ・茎頂培養の培地作成ができる。 ・供試植物からの茎頂摘出ができる。
	6	供試植物からの茎頂摘出 茎頂培養の手順と準備 茎頂培養	10	・供試植物からの茎頂摘出ができる。 ・茎頂培養の手順と準備ができる。 ・茎頂培養ができる。
	7	茎頂培養 継代培養	6	・茎頂培養ができる。 ・継代培養ができる。
二 学 期	9	ラン科植物の栽培管理 継代培養 組織片の培養	10	・ラン科植物の栽培管理ができる。 ・継代培養ができる。 ・組織片の培養ができる。
	10	ラン科植物の無菌播種 継代培養 順化	10	・ラン科植物の無菌播種ができる。 ・継代培養ができる。 ・順化ができる。
	11	その他の培養方法(胚培養など) 継代培養	8	・その他の培養方法(胚培養など)ができる。 ・継代培養ができる。
	12	その他の培養方法(やく培養など) 継代培養	6	・その他の培養方法(やく培養など)ができる。 ・継代培養ができる。
三 学 期	1	遺伝子組み換え技術と利用に関する現状 バイオマスの利用	6	・遺伝子組み換え技術と利用に関する現状を理解する。 ・バイオマスの利用を理解する。
	2			
	3			

評価の観点・方法

70

・ラン科植物の特徴を理解し適切な栽培管理をすることができる。 ・茎頂培養の意義と特徴を理解し、培養技術を習得している。
 ・培養植物の継代培養や順化作業をすることができる。 ・遺伝子組み換え技術やバイオマスなどの新しい技術を理解し、植物バイオテクノロジーの現状と課題について考えることができる。
 ・授業態度、実習態度、培養技術、レポート等提出物、考査によって評価する。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	草花	選択B草花	2	3学年	必修選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
草花(実教出版)	植物材料

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	春花壇苗の鉢上げ 懸崖菊の挿し芽	6	一年草の草花壇材料について理解する。 懸崖菊の挿し芽の方法を理解する。
	5	花壇デザイン 懸崖菊の鉢上げ、摘心	8	花壇の形状に応じたデザインができる。 懸崖菊の鉢上げ、管理ができる。
	6	花壇制作 懸崖菊の芽摘み	10	花壇制作ができる。 懸崖菊の芽摘み、管理ができる
	7	秋花壇苗の播種 懸崖菊の管理	4	花壇苗の播種、管理ができる。 懸崖菊の誘引、管理ができる。
二学期	9	秋花壇苗の管理 花壇デザイン 懸崖菊の管理	10	花壇の形状に応じたデザインができる。 懸崖菊の病害虫対策、管理ができる。
	10	花壇制作 懸崖菊の管理	10	花壇制作ができる。 懸崖菊の管理ができる。
	11	懸崖菊の仕上げ フラワーアレンジ	8	懸崖菊の仕上げができる。 リースの制作ができる。
	12	フラワーアレンジの応用	4	卒業制作ができる
三学期	1	東京GAPとオリパラ植物紹介	10	1年間のまとめができる
	2			
	3			

評価の観点・方法

70

次の4点から意欲、態度、技術の到達度等を総合的に判断し、評価する。

①授業態度②栽培技術の定着度③レポート④定期考査

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	造園技術	選択B造園技術	2	3	必修選択

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
造園技術(東京電機大学出版)	プリント、竹、造園樹木、造園植物

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	造園の定義 造園植物、造園樹木について	6	庭園製作上で、日本庭園に適した樹木と植物を理解できているか。
	5	造園樹木の管理 四ツ目垣の制作について	8	初夏における樹木の管理方法を理解できていること。 垣根の種類である四ツ目垣の制作方法を理解できていること。
	6	タケニついて 四ツ目垣の制作	10	タケの種類と垣根に適したタケを理解できていること。 四ツ目垣の部分名称がわかること。
	7	四ツ目垣の制作 テスト対策	6	四ツ目垣の胴縁、立て子の作り方を理解できていること。 親柱、間柱の設置が適正にできること。
二学期	9	四ツ目垣の制作	10	1学期に各分野で使用した教材や道具についての名称や使い方、役割を理解し、覚え、適切に扱えるようになる。
	10	四ツ目垣の制作 庭園植物について	10	1学期に各分野で使用した教材や道具についての名称や使い方、役割を理解し、覚え、適切に扱えるようになる。
	11	日本庭園について	10	庭園製作上で、日本庭園に適した樹木と植物を理解できているか。
	12	日本庭園について 樹木の管理 テスト対策	4	庭園製作上で、日本庭園に適した樹木と植物を理解できているか。
三学期	1	樹木の管理 整枝剪定 テスト対策	6	庭園製作上で、日本庭園に適した樹木と植物を理解できているか。 樹木の特性を理解し、適正な整枝剪定ができていること。
	2			
	3			

評価の観点・方法

70

座学2割、実習8割の割合で行い、実習中心の科目である。主に実習態度点、協働性、主体性を総合的に判断し、評価する。また、各学期末の定期考査を実施する。

令和3年度 年間授業計画

東京都立瑞穂農芸高等学校

教科	科目	講座名	単位数	対象学年	履修形態
農業	総合実習	総合実習	2	3	必修

使用教科書 および 使用教材

教科書	教材
実教出版「野菜」・実教出版「草花」・ 実教出版「果樹」	季節の野菜、草花、果樹

年間計画表

学期	月	指導内容	予定時数	具体的な指導目標
一学期	4	野菜:夏野菜の播種、管理 草花:春の草花管理 果樹:ブルーベリーの管理	6	野菜、草花、果樹それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	5	野菜:夏野菜の播種、管理 草花:春の草花管理 果樹:ブルーベリー、ナシの管理 実物鑑定	8	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	6	野菜:夏野菜の収穫と管理 草花:夏の草花管理 果樹:ブルーベリーの管理、ウメの収穫	10	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	7	野菜:夏野菜の収穫と管理 草花:夏の草花管理 果樹:ブルーベリーの収穫、ナシ、ブドウの管理 実物鑑定	2	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
二学期	9	野菜:秋野菜の播種と管理 草花:秋の草花管理 果樹:ブルーベリーの収穫	10	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	10	野菜:秋野菜の収穫と管理 草花:秋の草花管理 果樹:クリの収穫と加工 実物鑑定	10	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	11	野菜:秋冬野菜の収穫と管理 草花:秋の草花管理 果樹:ブルーベリージャム作り	8	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を習得できていること。
	12	野菜:冬野菜の収穫と管理 草花:冬の草花管理 果樹:干しがき作り、果樹の選定 実物鑑定	2	野菜、草花、造園、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
三学期	1	野菜:冬野菜の収穫と管理 草花:冬の草花管理 果樹:果樹の整枝剪定	6	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	2	野菜:畑の土壌改良と管理 草花:冬の草花管理 果樹:果樹の整枝剪定	6	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。
	3	野菜:畑の土壌改良と管理 草花:冬の草花管理 果樹:果樹の整枝剪定 実物鑑定	2	野菜、草花、果樹、それぞれの分野をローテーションで行う中で基礎的な知識と管理における基本的な技術を総合的に習得できていること。

評価の観点・方法

70

日頃の実習評価は、実習態度、レポートで評価する。態度点においては、協働性、主体性を中心とし、レポート点は実習内容の理解度、考察を重視して評価する。また、定期考査においては、実物鑑定を実施し、専門的知識の理解度を評価する。この実習態度、レポート、実物鑑定を総合的に評価する。